

千葉県習志野の事案における毒ガス弾等の埋設情報の収集状況等について

千葉県習志野の事案における毒ガス弾等の埋設場所に係る情報は下記の通り。

1. 情報収集等の経緯

(1) 厚生労働省からの情報提供（平成15年7～8月）

厚生労働省から環境省へ情報（別紙1、2）が提供されました。
保有状況及び処理状況を確認した主な結果は下記の通りです。

<厚生省とりまとめペーパー（別紙1）>

保有場所	保有部隊名等	種類・数量
千葉県習志野市 大久保	陸軍習志野学校	イペリット 不明 ルイサイト 6 屯 青酸 若干

投棄場所	投棄作業者名等	種類・数量
陸軍習志野学校 材料廠付近地下に埋設	陸軍習志野学校教 導隊員	イペリット } 6 屯 ルイサイト } 青酸 若干
千葉県銚子沖に投棄	同上	各種毒物 若干

<厚生省聞き取り調査票（別紙2）>

保有場所	種類	数量
陸軍習志野学校(習志野市大久保) 習志野原現自衛隊射撃場北側に疎 開しあり 当時学校は真毒使用場として使用 する。	イペリット ルイサイト	本数不明 檻数不明 約6屯余と記憶する

廃棄場所	種類	数量
昭和20.8.17-20の習志 野学校材料廠員、教導隊下士官に てサラン粉約10屯を使用し開放 し消毒の後地下に埋設する。終戦 後自衛隊に於て容器一部を発見、 米軍化学兵部隊に於いて徹底的完 全消毒を行い現在練兵場として使 用の筈。	イペリット ルイサイト	本数及檻別不明 約6屯余と記憶する

(2) 千葉県習志野の事案の取りまとめ（平成15年8～11月）

関係省庁及び都道府県等から提供された情報に基づき、千葉県習志野の事案（別紙3）を取りまとめ、11月末に昭和48年の「旧軍毒ガス弾等の全国調査」フォローアップ調査の報告書として公表しました。

(3) 材料廠の位置の確認（平成15年12月）

文献（別紙4）により、材料廠付近の位置を確認しました。

(4) 環境調査等の対応が必要である区域を習志野学校跡地と特定（平成16年2月）

環境省の専門家委員会において、習志野学校跡地内を対象として環境調査を行うこととなりました。

- (5) 習志野学校跡地における環境調査を開始(平成16年3月)
習志野学校跡地において、民有地等については環境省が、国有地については財務省が、地下水調査等、環境調査を開始しました。
- (6) 習志野学校出身者への聞き取り調査(別紙5)(平成16年3月)
習志野学校出身者の証言によれば、毒ガス弾等の処理場所は真毒使用所(現在の自衛隊習志野演習場)及び特殊弾格納庫周辺(現在の住宅地)と推測された。
真毒使用所及び特殊弾格納庫の位置を確認(別紙5、6)。

引き続き、旧軍関係者へのアンケート調査等により、情報収集を実施しました。
- (7) 習志野学校跡地における環境調査を終了(平成17年3月)
環境省及び財務省では、平成16年3月1日から習志野学校跡地の環境調査を行い、分析した全ての地下水・環境大気・土壌・表層ガスからは毒ガス成分は検出されませんでした。
また、既に実施した物理探査(レーダー探査、磁気探査)の反応物が毒ガス弾等でないことを確認する不審物確認調査を平成17年2月15日から3月18日に実施しました。その結果、全ての地点について不審物はありませんでした。

習志野学校跡地については、「現状においては日常生活を行う上で危険性はない(ただし、一部の場所で調査が完了していないため、その場所については土地所有者の要望に応じて調査を実施する。)」となりました。
- (8) 環境調査等の対応が必要である区域として、新たに習志野演習場を追加(平成17年4月)
環境省の専門家委員会において、習志野演習場内の環境調査(地下水調査及び物理探査)については防衛庁が、習志野演習場周辺の地下水調査については環境省が実施することとなりました。

様式1

番号	保有場所	保有部隊名等	種類・数量	資料の出所	備考
7	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	
8	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	
9	千葉県習志野市 大久保	陸軍習志野学校	イペリット ルサイト 青酸 不明 67 若干	現住所 氏名 職業 取得 当時の住所 当時の職業 不明 軍人	

別紙 化学兵器処理事等調査票

習志野学校

保有状況		処置状況	
種類	形態	数量	廃棄場所
パイロ ルイサイト	ドラム缶 (兵器)	23缶 (兵器)	昭和20年頃、習志野学校材機庫裏、教員隊下等、 パイロ材のドラム缶を1箱、向接性毒一箱、地下に埋設、 約1年後、自衛隊に発見、一部は発見、未発見のものは 自衛隊の倉庫に保管されている。現在、自衛隊の倉庫に使用 されている。
青酸	パイロ	2-3本 (使用済)	上記資料より、自衛隊の倉庫に保管されている。向接性毒 教育後、パイロは自衛隊の倉庫に保管されている。現在、 自衛隊の倉庫に使用されている。
ルイサイト	ガス弾	存在	遺棄された化学兵器の廃棄場所、自衛隊の倉庫に保管 されている。自衛隊の倉庫に保管されている。現在、 自衛隊の倉庫に使用されている。
化学兵器 毒物	化学兵器 毒物	存在	昭和20年頃、自衛隊の倉庫に保管されている。向接性毒 教育後、パイロは自衛隊の倉庫に保管されている。現在、 自衛隊の倉庫に使用されている。

備考
1. 調査の対象となる化学兵器はイペリット、青酸、ホスゲン、ジフエニルシアン、アールジン等である。
2. 廃棄場所についてはできるだけ詳細に記入されたい。

元所属 陸軍習志野学校材機庫夜長
現職業 専攻
氏名 元陸軍化学(習志野)少佐

化学兵器処理等調査票

保有状況			処理状況				
種類	形態	数量	保有場所	種類	形態	数量	廃棄場所
イペリット ルイサイト	ドラム缶 (容器)	本数不明 概数不明 約6トン余と 記憶する	陸軍習志野学校(習志野市大久保) 習志野原頭自衛隊射撃場北側に疎開 しあり 当時学校は真毒使用場として使用する。	イペリット ルイサイト	本数及概別 不明 約6トン余と 記憶する	ドラム缶 (容器)	昭和20.8.17-20習志野学校材料廠 員、教導隊下士官にてサラシ粉約10屯を 使用し開放し消毒の後地下に埋設する。 終戦後自衛隊に於て容器一部を発見、米 軍化学兵部隊に於いて徹底的完全消毒を 行い現在練兵場として使用の管
青酸	ボンベ	2-3本 (使用残)	陸軍習志野学校(習志野市大久保) 毒物庫	青酸	ボンベ	2-3本 (使用残)	上記兵隊員にて毒物場に於いて夜間放散する。 放散後ボンベは無毒なるも地下埋設せし管
ルイサイト	ガス弾	なし	ガス弾は常時保管しあらず 実験演習学生教育の際はその都度補給廠又は技本化学部より受領し演習場に随送演習場に於て全量を使用し学校には持還 らざるも尤可とする。但し校内に於て真実作業をさせる場合は信管を除き校内毒物場に一二は残置することもあった。				
各種実験用 毒物	各種容器 見本用 弾薬	極少量	校内毒物廠 実験講堂	各種実験用 毒物	各種容器 見本用 弾薬	極少量	一切を整理の後 昭和20.8.20日材料廠員の手に依り自動車にて餅 子に搬送し現場処理員の指示に依り併合に投棄 する。
備考	1 調査の対象となる化学兵器はイペリット、ルイサイト、青酸、ホスゲン、ジフェニルシアンアルシン等である。 2 廃棄場所についてはできるだけ詳細に記載されたい。						

参考

- 当校に於ける兵器弾薬(毒物を除く)の処理は進駐せる米軍の指示に基き一切を処理する
その関係書類は東部軍兵器部(共生講堂)の返還せり。
 - 化学器材は米軍の指示に基き校内に於て米軍に引渡す(米軍は横浜港
より米国に送還せり)
 - 兵衣類は下志津飛行場に於て米軍立会のもとに焼却せり
- 提供者 元所属 陸軍習志野学校材料廠長
現職業 無職
氏名 元陸軍化兵(騎兵)少佐

事案名	習志野の事案 (千葉県12-2)
分類	<ul style="list-style-type: none"> ○生産・保有 ○廃棄・遺棄 ○発見・被災・掃海等処理 ○現在の状況 ○その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『陸軍習志野学校』1987年〔1〕 ・『習志野市史』第1巻通史編、平成7年・同『習志野市史』第4巻資料編(Ⅲ)、平成6年〔2〕 ・『学校が兵舎になったとき』1996年〔3〕 ・証言〔4〕 ・Target No. 1453 (Narashino) Technical Intelligence Report of Captured Japanese CW Material (Narashino)〔5〕 ・証言(昭和48年調査)〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・『朝日新聞』(昭和26年10月19日)〔8〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告(案)」〔9〕 ・「毎日新聞」夕刊連載記事「化兵のとりで」(平成7年5月17日・5月24日・5月31日・6月7日)〔10〕 ・証言〔11〕 ・『毒ガス戦関係資料Ⅱ』1997年〔12〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について〕平成15年10月9日〔13〕
資料内容概要	<p>千葉県習志野には、昭和8年に創設された陸軍習志野学校跡が存在する。陸軍習志野学校は、毒ガス戦の教育と毒ガス兵器の運用研究を行なう機関であり、毒ガスの交付も行われた。戦後、同地域から毒ガス弾等が発見された事案がある。なお、「千葉県習志野」には、千葉県習志野市以外に千葉県船橋市、千葉県八千代市の市域が含まれる。</p> <p>○生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒ガスを用いた教育や研究が行われており、毒ガスが交付されていたことが確認される〔1〕〔2〕。また、特殊なガス室(八面房)跡も確認されている〔3〕。 ・昭和16年に習志野学校で毒ガスに関する訓練を受け、イペリット、ルイサイト、催涙ガス、火炎瓶を扱ったという証言と、昭和19年11月から習志野学校で1週間毒ガスの教育を受け(被災したときの応急措置等)、イペリットの2斗のドラム缶数百本野が積みされていたのを目撃した(射場の裏側)という証言が得られている〔4〕。 ・習志野学校の設備・機材等について記載されている〔5〕。

○廃棄・遺棄情報

・終戦時、イペリット・ルイサイトなどが「若干」残存し、「一部は自ら処分、大部分は進駐軍に引渡しその監督下に処分」した〔1〕。

・元関係者の証言として、「終戦時、イペリット缶とルイサイト缶（合わせて約6 t）・青酸ボンベ（若干）を保有しており、これらは学校敷地内において晒粉で中和し埋設し（材料廠付近地下）、青酸は大気に放出した。また、これとは別に各種毒物若干を銚子沖に投棄した」と記載されている〔6〕。

○発見・被災・掃海等処理情報

・昭和26年6月28日、千葉県習志野でルイサイト入りの缶3本発見により演習中の自衛隊員14名負傷したと記載されている〔7〕。

・連合軍総司令部は、埋設されていた日本軍の毒ガスを、昭和26年10月24日を予定として千葉県習志野の米軍兵舎内で焼却処分すると発表している〔8〕。

・昭和35年2月17日から19日にかけて、千葉県習志野で、ルイサイト入りドラム缶1個が発見されたと記載されている〔7〕。

・昭和35年3月4日から11日にかけて、千葉県習志野で催涙剤（固体）10kgが発見され、土地の除染と海洋投棄を行ったと記載されている〔7〕。

・昭和37年8月21日に、千葉県習志野でイペリット弾8発が発見されている〔9〕。

・昭和37年9月に、千葉県習志野でイペリット弾2発が発見されたと記載されている〔7〕〔9〕。

・昭和39年11月18日に、千葉県習志野で旧軍ガスボンベ6本（大2本・小4本）が発見されたと記載されている〔7〕。

○現在の状況

・陸軍習志野学校跡地は戦後、警察署、教育施設、県営住宅、関東財務局宿舎や関東財務局の未利用地となっている〔1〕〔11〕。

・平成6年に合同宿舎の建築に当たり地下埋設物の状況について関東財務局の調査が行われ、八角形の基礎及び煙突状建築物などが確認されている〔10〕。

・平成15年5月8日に、旧軍習志野学校跡地において、水質調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。

・平成15年7月28日に、旧軍習志野学校跡地で、現在、保育所となっている土地において、ヒ素に関する土壌調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。

○その他情報

- ・なお、習志野学校跡地に所在するわけではないが、近傍にある陸上自衛隊習志野演習場に関して、陸上自衛隊第1空挺団（船橋市）に所属していた元自衛隊員から以下のような証言があった。「昭和40～41年ごろ、習志野演習場内にある松林内の高圧線の近くに約20m四方の縄を張った立ち入り禁止区域があり、そこにはイペリットが埋めてあるとのことで、当時、隊員には立ち入り禁止の指示があった。昭和40年ごろはここには草も生えなかったが、昭和44年ごろから草が生え、立ち入り禁止区画の縄も除去された」〔11〕。
- ・終戦時における習志野学校の配置図が存在する〔12〕。